

大鹿村中央構造線博物館たより 194号



2025年7月発行

TEL: (0265) 39-2205
staff69@mtl-muse.com

エコパークスキルアップ講座第10回 「青田山林道沿いの植物観察」開催しました！

2025年6月1日、エコパークスキルアップ講座第10回「青田山林道沿いの植物観察」を開催しました(写真1)。当日は、朝早くの集合ということもあり、村内の10名の方に参加いただきました。また、集合場所から観察場所まで距離が長いため、途中まで車で向かうことになりました。ただし、青田山林道は倒木や落石が多いため、行き慣れている方の先導のもと、安全運転で向かいました。そして、標高1618m付近から歩き始め、林道終点からは道なき道を進みました。行程全般を通して、多くの花が咲いていたこともあり、じっくり観察しながら時間をかけて進みました。最終的に標高1970mの比較的平坦なところまで行って昼食をとり、車を置いたところまで戻りました。

今回歩いたエリアは、寒地性植物であるシラオイハコベの分布南限となっていることが報告されており(*1)。今回の観察会でもシラオイハコベの草がいくつか見られましたが、残念ながら花は咲いていませんでした(写真2)。



写真1 講座の様子



写真2 シラオイハコベの葉

また、今回歩いたエリアは蛇紋岩の分布域となっています(写真3)。蛇紋岩の風化によってできる土壌は、窒素・リン酸・カリウムに乏しいこと、マグネシウムを多量に含むこと、ニッケル・クロム・コバルトといった重金属を多く含むことなど、植物の生育には厳しい特徴を持つことから、他の土壌では見られない固有種が生育することがあるそうです(*2)。今回の観察会でも、伊那市と大鹿村の蛇紋岩地にだけ自生するといわれるイナトウヒレンの草が見られました。こちらも残念ながら花は咲いていませんでした(写真4)。



写真3 蛇紋岩の露岩



写真4 イナトウヒレンの葉

最後に、次回以降の予定ですが、参加者や、参加を見送られた方数名の方から、健脚でなくても参加できる内容の講座を開催して欲しいとのご希望を頂いていますので、来年度くらいには実現できるよう検討していきたいと思っております。(宮崎)

参考文献

(*1) 蛭間(2013) 観察記録ノート 長野県南部地域でシラオイハコベの生育を確認, 伊那谷自然論集14巻, p.53.

(*2) 水野(2024) VII-1 地質-土壌-植物の相互作用: 蛇紋岩土壌の研究を例に, 日本土壌肥料学会2024年度福岡大会プログラム, p.201.